

冬の管理釣り場攻略  
段差の底釣り

へらエサマニュアル

徹底解析

No.2

 マルキュー

## 段差の底釣りとは？

水温が大きく低下する厳寒期。動きの鈍くなったへら鮎は寄りが遅いうえ、目の前にあるくわせエサにも簡単には飛びつきません。バラケが落ちてからアタリが出る状況下では、へら鮎を寄せて「待ち」に耐える必要があるのです。そこで登場するのが、段差の底釣り。宙の位置にあるバラケがシャワーのようにタテにバラけて、底にあるウドン系や感嘆などのくわせエサの所にへら鮎を誘い込む。そして、食わせる。これが、この釣りの基本になります。

## 釣り方のコツは...

冬は、季節風の影響を大きく受ける時期。強い風が吹くと、仕掛けが大きく流されてアタリが出にくくなってしまいます。ですから、まずは風の抵抗を受けにくい、チョーチンで底に届くサオを選ぶことが大切です。釣っていて底が掘れることもありますので、タナのチェックはマメにおこなってください。

この釣りは、状況によってバラケエサとくわせエサ、それにハリスの長さも変わってきます。今回は、その点も含めて細かく解説していきましょう。

## 基本的な段差の底釣りの仕掛け

### 仕掛け

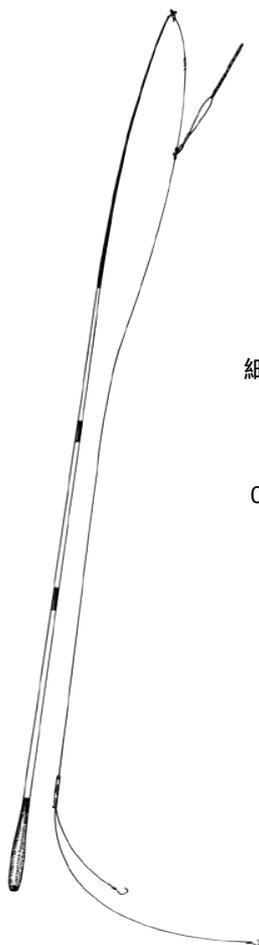
道糸の伸縮によるタナボケを防止するため、太めのものがおすすめ。反対にハリスは吸い込みがよい、細くてしなやかなものを使う。

### サオ

釣り座の水深に応じて、チョーチンで底が取れる長さのものを使い分ける。

### ハリ

上バリは、バラケをタナまで持たせるために大きめのものを使用。水深、バラケのタッチにより、ヤラズタイプの5～6号を使い分ける。下バリは、吸い込みのよいクワセ用の2～3号を使う。



### ウキ

深宙釣りに使う足長タイプを使用。水深に対するウキのボディ寸法の目安  
(板オモリは、0.25ミリ厚で幅約17ミリのものを使用)

| 水深   | ボディ寸法   | オモリの長さ |
|------|---------|--------|
| 3～4m | 10～12cm | 3～4cm  |
| 4～5m | 14～16cm | 4～5cm  |
| 5～6m | 18～20cm | 5～6cm  |

### 道糸

0.7～0.8号を使用。流れによる抵抗を考慮すると細いものが有利だが、伸縮によってアタリがボケることもあるので、やや太いものを使う。

### ハリス

0.2～0.35号を基準に、アタリの出方に応じて太さの違うものを使い分ける。食いの渋いときは、細いものが有利。

### 状況別のハリス段差

| 状況                 | 上       | 下        |
|--------------------|---------|----------|
| アタリが少ないとき          | 15～20cm | 60～80cm  |
| 極めてアタリが少ないとき(図1)   | 10～15cm | 80～100cm |
| 寄りがよく、なじみが悪いとき(図2) | 10～15cm | 35～45cm  |
| カラツンが多いとき          | 5～10cm  | 30～40cm  |

図1

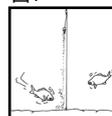


図2



## バラケエサの考え方

活性の鈍ったへら鮒を深宙から底へと集めるには、タナまで持つバラケで、膨らみながら底へ落下するようなエサが必要になります。そのために、バラケ性のよいエサに重たい麩をブレンドしてみてください。落下する麩の粒子に誘われたへら鮒が下を向くので、底にあるくわせエサを食わせることができます。その一例が、下のブレンドです。

「へらスイミー」1 + 水1 + 「バラケマツハ」2 + 「スーパーダンゴ」2



十分に「へらスイミー」に水を吸わせてから他の麩を加え、手を熊の手状にして全体を20回ほどかき混ぜ、サラッとした感じが出ればできあがりです。それを、人差し指の頭ほどの大きさにハリ付け。打ち始めはラフに、サワリが出たらいいいに丸めてください。このときのなじみ幅は、パイプトップで4～5目盛りになります。トップの上がりが遅いときは、手水を打って軟らかく手直し。時間が経ってエサが締まってきた場合にも、手水を打ってほぐすようにすると、バラケ性がよくなります。

## こんなときどうする!

食い渋り、カラツン、ウワズリ時などの状況別対応策

段差の底釣りでは、比較的水深の深いタナを狙います。まず要求されるのは、タナまで持つバラケ作り。そこからへら鮒の活性により、食いの渋いときにはバラケを持たせながら待つ、カラツンの多い場合には抜くといった対応になります。それにはA～C群の各エサの性質を利用して、バラケエサを組み立てていきます。

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>A群</b> バラケ性のよいエサにしたいときは</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>新B</b> </div> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>バラケマツハ</b> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>段差バラケ</b> </div> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>スーパーダンゴ</b> </div> </div> | <p><b>B群</b> ハリ持ちのよいエサにしたいときは</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <br/> <b>特S</b> </div> | <p><b>C群</b> 重いエサにしたいときは</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>ダンゴの底釣り重</b> </div> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>底力</b> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>底バラ</b> </div> <div style="text-align: center;"> <br/> <b>とろスイミー</b> </div> </div> |
|---|---|---|

段差の底釣りでは、バラケる麩と重い麩のコンビネーションが重要になります。というのは、釣るタナが深い上にハリス段差も大幅に違ってきますし、その時々によってへら鮒の状態が大きく異なってくるからです。たとえば、食いが渋く、ハリス段差を大きくして釣るときには、締めたバラケに手もみを加えて粒子を細かく落下させ、魚の食うタイミングに合わせるのがコツになります。このような場合では、重たい麩を少なくしたバラケ作りになります。反対にへら鮒の寄りがよいときのバラケエサは、軽くハリ付けした重いエサが、下へザラザラとバラケるのが効果的。このようなことから、重たいエサをどうブレンドするのか、手揉みをどれだけ強くするのかということが、この釣りではカギになります。なお、アタリはバラケが落ちてから取るのが基本。ですから、早く落としたいときにはまともやすいタイプのエサを使わず、ハリ切れのよいものでウワズリを抑えながら釣ることも大切です。

ここで、状況に合わせたバラケエサのパターンを紹介してみましょう。

### バラケを早く抜きたいとき

「特S」1+水1+「段差バラケ」2+「新B」1+「ダンゴの底釣り夏」0.5

なじみ幅は、手もみで調整。なじんだ直後にへら鮎にさわらせて抜くバラケです。「ダンゴの底釣り夏」の代わりに「底力」でもよい。

### へら鮎がウワズリ気味のとき

「新B」2+「ダンゴの底釣り夏」1+水1.5+「鬼バラ」2

重いのでタテにバラケ、へら鮎を底に集めやすくなります。持たせるときにははていねいにハリ付けし、早く抜きたい場合には手水を打って軟らかく手直しします。

### カラツンが多いとき

「とろスイミー」1+水1+「底バラ」2+「スーパーダンゴ」1

仕上がりは、標準的なボソ。ハリ付けのときに、手揉みを加えてなじみ幅を調整します。サラッと抜けるバラケなので、タナが深いときには「スーパーダンゴ」の代わりに「バラケマツハ」を使います。

### タナが深いとき

「新B」2+「ダンゴの底釣り夏」1+「底バラ」1+水2+「冬のバラケ」3

19尺いっぱいぐらいまでのタナに対応。食いの渋いときには押し練りをして、小指の頭ほどの大きさに。食いのよいときには、基エサを手揉みして中指の頭ほどの大きさにハリ付けします。なじみ幅は3目盛りを目安にし、バラケが落ちてからのアタリを狙います。

上記のパターンにおいて、基本的にバラケを持たせる、早く抜かせるなどは、加える水の量で調整します。持たせたいときは水を少なめで硬めに仕上げ、早く抜かせたいときは水を多めに加え、軟らかく仕上げるのがコツです。

## 釣況に応じたくわせエサ選び

釣況によってバラケエサやハリスの長さを選択するように、くわせエサも、その時々状況に合ったものを選びます。食いの渋いときにはコシ、ねばりの強いもの、あるいは軽いものといった具合に。ここでは、そのくわせエサの紹介をしてみましょう。



#### 感嘆

硬い、軟らかいの調整が自在。釣り場で簡単に作れ、オカユポンプで使います。ネバリとコシがしっかりしているのでダレがほとんどなく、長時間の使用にも安心。手軽さがウケている、くわせエサです。

¥300



#### 特選わらび彩

軽くて吸い込みがよく、しかもハリ切れのよいわらびうどん。だから、昨今気になるくわせエサへのカラツンを極力防いでくれます。アタリが出たら確実に食わせたいときに使ううどんです。

¥400(3袋入り)



#### JP (ジェイビー)

ナベで作る、ポンプ出し専用のわらびうどん。軟らかく作っても、しっかりとハリに残る粘りの強さ。そして、経時変化が極めて少ないという特長を持ち、食い渋ったへら鮎に絶大な威力を発揮します。コシの強さは、天下一品。電子レンジでも作れます。

¥400(3袋入り)



#### わらびどん

しっかりハリに残るから、食い渋りの誘い釣りに効果があるわらびうどん。うどん特有の重さでハリスを張らせ、食いアタリをオモリ、そしてウキへとダイレクトに伝えます。宙のセット釣りから段差の底釣りまで幅広くカバーします。

¥400(3袋入り)